

科目名	サンスクリット語 I B			学期	通年	単位数	2	担当者	前谷彰
副題	-								
ナンバリング	M1-07-249	授業方法	講義	実務経験の有無			無	関連DP	1

授業の目的と概要

サンスクリット語とはどんな言語かを理解するために、その文法体系を学び、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を養う。

授業の到達目標

サンスクリット語とはどんな言語かを理解し、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を付ける。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。①
3. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。②
4. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。③
5. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。④
6. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑤
7. 音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑥
8. 短文読解力を身に着ける。①
9. 短文読解力を身に着ける。②
10. 短文読解力を身に着ける。③
11. 短文読解力を身に着ける。④
12. 短文読解力を身に着ける。⑤
13. 原典翻訳①
14. 原典翻訳②
15. 原典翻訳③

【後期】

1. 原典翻訳④
2. 原典翻訳⑤
3. 原典翻訳⑥
4. 原典翻訳⑦
5. 原典翻訳⑧
6. 原典翻訳⑨
7. 原典翻訳⑩
8. 原典翻訳⑪
9. 原典翻訳⑫
10. 原典翻訳⑬
11. 原典翻訳⑭
12. 原典翻訳⑮
13. 原典翻訳⑯
14. 原典翻訳⑰
15. 原典翻訳⑱、まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。（60分）

事後学習として、授業で学んだことを復習し、理解を深めておくこと。（60分）

テキスト

担当者作成のテキストのコピーを配布する。

参考書・参考資料等

辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波全書）

学生に対する評価

学期末（前期・後期）の試験（80%）と、授業態度（20%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) Sandhi法則を理解し、結合文字を分解できること。
- (B) 音法則の理解を通して、語根を類推する能力を身に着けていること。語の音論を理解していること。
- (A) 簡単な短文を翻訳する能力を身に着けていること。
- (S) 難解な仏教外文献を翻訳できること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）